

## 4115 本州化学工業

船越 良幸 (フナコシ ヨシユキ)

本州化学工業株式会社社長

### 特殊ビスフェノールの供給量拡大要請が継続

#### ◆当社の特徴

当社は1914年に創業した会社であり、現在東証2部に上場している。資本金は15億50万円、発行済株式数は1,150万株であり、主要株主は、三井物産(1953年資本参加)および三井化学(1968年資本参加)であり、いずれも26.98%を保有している。事業所は、本店を東京都中央区に置き、和歌山市に和歌山工場と総合研究所を置いている。また、関係子会社として、ドイツのザクセン・アンハルト州にHi-Bis社を設立しており、現在、業績は好調に推移している。

当社では、①成長する市場があり、②独自技術が活用でき、③世界または日本において高いマーケットシェアを有していることをコア事業の選定基準としている。現在、半導体の生産の際に用いられるフォトレジスト材料、家畜飼料の添加剤に使われるビタミンE原料のトリメチルフェノールを主力としたクレゾール誘導品、パソコン等の電子部品に多く使われるビフェノール等がコア事業となっている。

当社は、歴史的経緯と基盤技術の蓄積から、フェノール誘導品の合成を得意としており、「コア製品」を見出して、育成・強化・拡大を図っている。当社は、三井化学から購入している主要原料のフェノールおよびメタパラクレゾールを使用して中間原料である各種のフェノール誘導品を製造し、これらの製品を主に樹脂メーカー、フォトレジストメーカー、医薬品メーカーに販売しており、顧客から頼りにされる製品開発パートナーとしての関係を構築している。

当社は1915年に他社に先駆けて合成フェノールの工業化に成功した。1961年にビスフェノールAの製造を開始し、1971年よりビタミンEの原料となるトリメチルフェノールの製造を開始した。1988年には、ビスフェノールA事業を旧三井石油化学工業に譲渡し、1990年よりフォトレジスト材料、1991年よりビフェノールの製造を開始している。2001年にドイツにHi-Bis社を設立し、2004年より特殊ビスフェノールの製造販売を開始した。2008年にビスフェノールFの製造設備を増設し、2009年より精製BHT(酸化防止剤)の事業を開始した。2012年10月には、Hi-Bis社のプラント増強工事を開始している。

#### ◆2013年3月期第2四半期(2012年4~9月)実績

2013年3月期第2四半期(2012年4~9月)の連結業績は、売上高77億69百万円、営業利益3億91百万円、経常利益3億85百万円、四半期純利益は1億73百万円となり、前年同期比で減収減益となった。

当四半期における全般の事業概況は、薄型テレビやパソコン等の需要減退により、IT関連機器・デジタル家電分野で生産調整が行われたため、フォトレジスト材料やビフェノールの販売が減少した。また、4月22日に発生した三井化学岩国大竹工場の爆発火災事故によるメタパラクレゾールの供給停止に伴い、当社は、トリメチルフェノールなどクレゾール誘導品の生産・販売活動面で制約を受けるとともに、工場操業率の低下により固定費負担が増加した。

売上高構成比は、化学品事業(クレゾール誘導品、ビスフェノール、ビスフェノール F 等)が 44.3%、機能材料事業(フォトレジスト材料、特殊ビスフェノール、感光性ポリイミド材料、開発品等)が 22.3%、工業材料事業(Hi-Bis 社の特殊ビスフェノール、受託品)が 32.5%となった。

化学品事業の売上高は 34 億 39 百万円(前年同期比 5 億 35 百万円減)、営業利益はマイナス 1 億 16 百万円(同 2 億 76 百万円減)となった。主要製品の販売状況としては、トリメチルフェノールが大幅な減販となったが、その要因は、ユーザーサイドでの在庫・出荷調整による需要減少に加えて、メタパラクレゾールの供給停止により販売活動の制約を受けたことである。ビスフェノールについても、ユーザーサイドでの生産・在庫調整による需要減少により、大幅な減販となった。ビスフェノール F は、前年同期においては震災対応による支援出荷により販売が増加したこともあり、前年同期との比較では減販となっている。

機能材料事業の売上高は 17 億 33 百万円(前年同期比 3 億 68 百万円減)、営業利益は 4 億 3 百万円(同 3 億 8 百万円減)となった。主要製品の販売状況としては、フォトレジスト材料が半導体・LCD 用ともに減販となったが、その要因はユーザーサイドの生産・在庫調整による需要減少である。なお、この在庫調整には、三井化学の事故による影響(メタパラクレゾールを使用したフォトレジストの原料であるノボラック樹脂の調達難)に伴うものも含まれている。

特殊ビスフェノールについては、一部ユーザーへの出荷時期が下期以降にスライドしたことから減販となったが、光学・電子部品用途向けの需要は堅調に推移している。感光性ポリイミド材料についても、大幅な減販となっているが、これは世代交代の影響による一時的な減少であり、今後は技術的な優位性を活かしたマーケティングを行うこととしている。

工業材料事業の売上高は 25 億 29 百万円(前年同期比 1 億 87 百万円増)、営業利益は 3 億 8 百万円(同 91 百万円減)となった。主要製品の販売状況としては、自動車用部品向け特殊ポリカーボネートの原料である特殊ビスフェノールが引き続き旺盛な需要を背景に大幅な増販となった。受託品についても、受託数量の増加により増販となった。

連結貸借対照表については、総資産が約 183 億円となった。自己資本比率は 2012 年 3 月末の 60.7%から 65.3%に上昇しており、借入金の返済を進めたことから、D/E レシオは 0.2 から 0.08 に低下している。連結キャッシュフローについては、長期借入金の返済により、財務活動によるキャッシュフローがマイナス 15 億 14 百万円となった。期末有利子負債残高は、前年同期末の 24 億円から 10 億円に減少している。

## ◆2013 年 3 月期通期業績見通し

通期の連結業績は、売上高 160 億円、営業利益 11 億円、経常利益 10 億 50 百万円、当期純利益 5 億 70 百万円を見込んでいる。下半期の市場状況としては、世界経済の減速、米国の「財政の崖」問題、日中関係の悪化による需要の減速が想定される。また、国内補助金等の政策効果がストップし、国内の自動車・電機産業の収益が悪化すると見られている。加えて、円高の継続、輸出の減速、輸入品の競争力増大が見込まれる。当社の状況としては、化学品事業および機能材料事業の売上高ダウンが懸念されるため、販売数量の拡大に努めていく。特殊ビスフェノールについては、ユーザーからの供給量拡大要請が継続すると見ている。このような状況のもとで、当社グループは、予算達成のための課題として次の 5 項目を掲げ、今後鋭意実行していくこととしている。

①安全・安定運転の確保

②コスト競争力の確保

「BEP60」(60%の稼働率でも利益の出る体質を目指す取り組み)を推進する。

③事業課題の挑戦的対応策の策定と実行

競争相手が増加するなか、テクニカルサービスや営業活動、技術革新を挑戦的に行っていきたい。

④既存製品の新規用途開発と新製品開発の加速

感光性ポリイミド、光学用ポリカーボネート原料、高熱伝導材料などユニークな製品の開発を進めていく。

⑤特殊ビスフェノール事業の拡大対応

◆トピックス

・Hi-Bis 社の特殊ビスフェノールプラントの増強工事については、10月1日に起工式を行った。今回の増強工事により、生産能力が年間5,000トン増加し、トータルで年間1万トンとなる。投資金額は約5,000万ユーロで、2014年3月の完工、2014年7月の営業運転開始を予定している。

・メタパラクレゾールについては、三井化学が9月下旬から供給を再開したものの、今後は供給量での制約や調達価格の上昇が予想される。

(平成24年11月28日・東京)